

⑭一般国道26号 第二阪和国道建設事業

キーワード 広域交通ネットワーク形成、リダンダンシー、ICT技術

全建賞審査委員会の評価ポイント

一般国道26号第二阪和国道のうち、地域高規格道路として整備を進めている大阪府阪南市から和歌山県和歌山市に至る延長20.6kmのバイパス整備事業。旧国道の交通混雑の緩和、災害時の代替路の確保を目的とする。

山間部で施工ヤードが限られる厳しい条件の中、ICT技術を活用し早期供用を図った点、河川付替工事の際に動植物の保全のための取組みを実施した点が評価された。

1. はじめに

浪速国道事務所では、大阪を中心とした近畿圏内の交流・連携活性化を支援するネットワークの形成や、安全で安心できる良好な道路交通環境の構築に向けて、国道1号淀川左岸線延伸部、国道2号大阪湾岸道路西伸部、国道26号第二阪和国道、国道163号清滝生駒道路の整備に取り組んでいる。

2. 事業の概要

この度開通した第二阪和国道は、大阪府南部（阪南市自然田）と和歌山県北部（和歌山市元寺町）の連携を図り、時間距離を大幅に短縮するとともに、異常気象時通行規制区間の解消や関西国際空港へのアクセス向上を図ることを目的とした延長20.6kmの地域高規格道路である。

昭和63年度に事業化され、これまで区間毎に部分開通しながら、平成29年4月1日に全線開通に至った。

3. 事業の成果

第二阪和国道の事業区間は、現道（国道26号）と南海電鉄本線が並行し、山間部を通る路線であり、施工ヤ-



全線開通した第二阪和国道

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所

ドの制限など現場条件が非常に厳しい中、トンネル、橋梁、道路改良、舗装工事等を実施し、工事の最盛期となった平成28年度には最大40社を超える施工業者がひしめく現場環境でもあった。そのような中、平成29年4月に供用開始した区間では、早期供用を図るため、切土工事においてはドローンを用いた三次元測量を行い、三次元データを用いて、マシンガイダンスを搭載したバックホウによる切土管理を行った。

ICT技術を全面的に導入することで生産性が向上し、工期短縮を図ることが可能となった。

また、自然環境保全対策に対しても、河川の付替工事では、採取・移植において、限られた移植時期と工程の中、効率的かつ多くの生物の採取・移植を行い、付替河川の環境再生を全体の工事進捗に大きな負担をかけずに取り組むことができた。



マシンガイダンスを搭載したバックホウによる切土施工

4. おわりに

長年かけた事業の第二阪和国道が全線開通したことで、長年の課題であった現道国道26号の交通混雑の緩和、交通安全の確保、救急医療の支援、災害時の代替路の確保といった効果が期待されている。

今後も浪速国道事務所では、関西の環状道路である国道1号淀川左岸線延伸部、国道2号大阪湾岸道路西伸部などの大規模事業に取り組んでいく所存である。

賛助会員 (株)大林組、川田建設(株)、(株)ガイアート、(株)鴻池組、東急建設(株)、戸田建設(株)、日本道路(株)、(株)フジタ、前田建設工業(株)、(株)横河ブリッジ